

[8]えびの市小学校体育連盟

(学校数 5校 児童数 786人)

I 年間事業

期 日	曜	内 容	会 場
5月 29日	月	・役員選出 ・事業計画 ・水泳記録会について ・研究計画	飯野小学校
8月 2日	水	・水泳記録会反省 ・陸上記録会について ・研究推進	飯野小学校
10月26日	木	・研究推進	飯野小学校
12月11日	月	・陸上記録会反省 研究のまとめ	飯野小学校
2月下旬		・年間活動のまとめ ・会計報告 ・次年度の引き継ぎ資料作成	飯野小学校

II 事業部のあゆみ

1 水泳大会

- (1) 大会名 令和5年度えびの市小学校水泳大会（記録会）
- (2) 実施期間 令和5年7月
- (3) 会場 えびの市内各小学校プール
- (4) 出場者 えびの市内小学校（5校） 5・6年生選抜選手
- (5) 実施種目 ※すべての種目「飛び込みなし」

	5年生競技	6年生競技
	種 目	種 目
男子	25m自由形	25・50m自由形
	25m平泳ぎ	25・50m平泳ぎ
女子	25m自由形	25・50m自由形
	25m平泳ぎ	25・50m平泳ぎ
リレー	学級対抗100mリレー	6年男子100mリレー
		6年女子100mリレー

- (6) 日程  
各学校で記録会を設定し実施する。
- (7) 表彰  
各個人種目、リレー種目5位まで入賞とする。
- (8) 反省
  - タイムの部と距離の部を作ることで、全児童が目標をもって練習に取り組むことができた。
  - 今後も泳法違反者等について全体での共通理解を行ったうえで、実施することが必要。

2 陸上大会

- (1) 大会名 令和5年度えびの市小学校陸上大会（記録会）
- (2) 実施期間 令和5年10月～11月
- (3) 会場 えびの市内各小学校運動場
- (4) 出場者 えびの市内小学校（5校） 5・6年生
- (5) 実施種目 50mハードル走・・・全員参加  
100m走、中距離走、ソフトボール投げ、走り幅跳び・・・選択種目
- (6) 日程  
各学校で、ハードル走のみ記録会を設定し実施する。
- (7) 表彰  
各種目3位まで入賞とする。

### (8) 反省

- 各校開催のメリットとして、各学校の教育課程に合わせた時期に実施できる面があるので、年度初めに陸上記録会について提案できるような体勢にしておきたい。
- 大会がなかったこともあり、記録に学校差が見られた。各学校での指導の工夫改善が今後の課題である。

## III 研究部のあゆみ

### 1 研究主題

一人一人が進んで運動に親しみ、その楽しさを味わう体育科学習の在り方  
～ICTを活用した主体的・対話的で深い学びのある授業づくりを通して～

### 2 研究の目標

体育科学習における指導の系統化・重点化や単元構成の工夫、児童一人一人の視点に立った授業づくりなどを通して、運動の楽しさや自らの成長を実感できる児童を育成するための体育科学習の在り方について究明する。

### 3 研究の内容

- 6年間を見通した指導内容の充実と重点化
  - ・指導内容の系統表の作成
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
  - ・デジタル学習カードの作成
  - ・教材・教具や場の工夫

### 4 研究計画

年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
研究内容	○ アンケートによる実態把握 ○ 授業づくりのための実践及び検証	○ 1年目の実践をもとにした指導法の改善及び検証	○ 指導方法の実践（器械運動：マット運動）

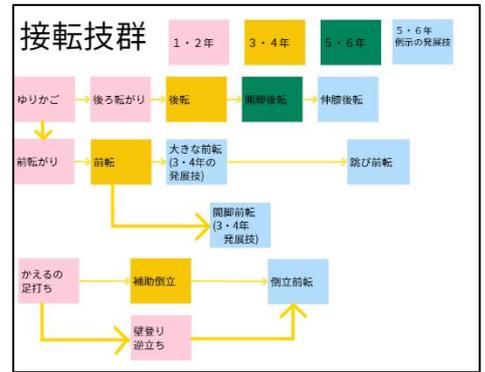
### 5 研究の実際

本年度より、主題を「一人一人が進んで運動に親しみ、その楽しさを味わう体育科学習の在り方」副題を「ICTを活用した主体的・対話的で深い学びのある授業づくりを通して」と設定して研究を進めることとした。令和3年の中教審答申でも学習指導要領において示された資質・能力の育成を着実に進めることが重要であり、そのためには新たに学校における基盤的なツールとなるICTも最大限活用しながら、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実が図られることが求められるとされている。そこで、児童一人一人の実態に応じて児童自らが活動を選択したり、友達と対話しながら自己の課題を解決したりしていくなど、主体的・対話的で深い学びのある授業をめざして本研究を進めることとした。本研究では、えびの市の小体連の年間指導計画や運動の特性、一人一人の実態に応じた学習が個性化しやすいと考えられることから器械運動、特にマット運動に取り組むこととした。この器械運動の単元は、経験の少ない教職員が指導に難しさを感じている実態もあったため、えびの市の中で研究を行い広げていくことに意義があると考えた。

えびの市内では、令和3年度4月より全校児童が一人一台のタブレット端末を活用できる環境が整った。タブレット端末を活用し始めて3年目の本年度、タブレット端末やワークシート等をより効果的に活用できるよう、実践的に研究することとした。

(1) 6年間を見通した指導内容の充実と重点化

体育の技能向上において、学年間の指導内容を整理して授業を進めていくことが大変重要である。特にマット運動では、基本技から発展技へという流れもあるため、本年度は、学習指導要領に例示されている技の系統性を整理して、指導の個別化を行うための参考資料とした。学年部ごとに例示されているが、授業の際には学年は示さず、技の発展や基本で往還できるように示した。児童が取り組む技を選択する際や取り組む技を迷っている際の声掛けを行う際に提示することで児童のやってみようという気持ちをもつことにつながった。実際の授業で、「僕は開脚前転ができるようになったから、次は伸膝後転に取り組んでみよう。」「倒立前転でうまく止まれないから壁登り逆立ちをしてみよう。」などの声が聞かれた。



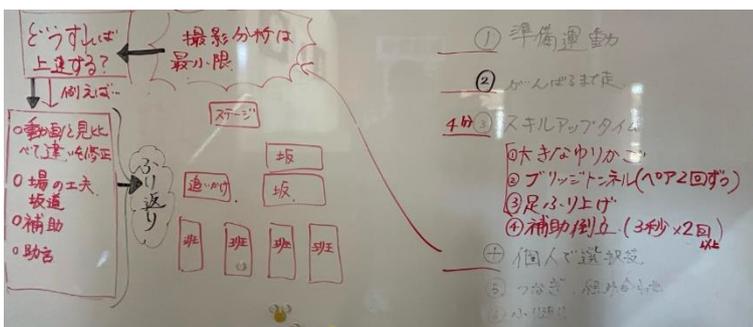
【技の系統図】

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

タブレット端末が個人の学習ツールとして利用できるようになったことで、個人の学習結果の蓄積も可能となった。体育学習においても単元を通して、毎時間の学習の様子を撮影し個人のタブレット端末に保存することができる。また、毎時間の変化を比較することができ、自己の技能の高まりを自覚することや新たな課題を発見することにもつながると考えた。

① デジタル学習カードの作成

上記のようなことをねらい、マット運動の学習において、デジタル学習カードを作成した。一単元の学習の流れ、一単位時間の学習の流れ、運動のポイントや技の動画なども一緒に載せることで児童が一人一人ポイントを意識したり、手本の技から自分の課題を掴んだりできるようにした。また、Hintカードという児童が課題解決に向けた練習を選択できるようなカードも準備した。



【授業の流れの板書写真】



【児童の技能向上のためのヒントカード】



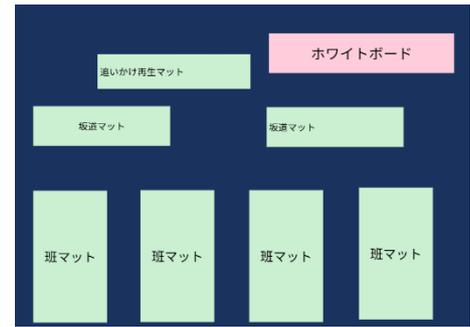
【児童が記入したワークシート】



【児童の技能の変容】

## ② 教材・教具や場の工夫

児童が自ら発見した課題を改善していくときに、練習の場を自ら選べるようにいくつかの場をあらかじめ設定した。坂道マットや追いかけ再生マットなど、児童が自らの課題に応じた場を選びながら運動する姿が見られるようになった。また、場を選んだ後に友達の回転不足を指摘して坂道マットでの練習を提案したり、追いかけ再生マットで友達のいい点や課題を指摘したりする姿も見られるようになった。



【場の設定】



左児童：ぼくどうしたらいい？

右児童：最初の勢いが大事だよ。ハードル走みたい  
に助走するといいよ。ころんと行くときに  
助走する感じで後ろに回ってみて。

【追いかけ再生の動画をもとに話し合う児童】

## 6 成果と課題

### (1) 成果

- 学習内容、特に学習指導要領解説に例示されている技の系統や指導の重点化を図ることで児童一人一人が主体的に学習に取り組む際の声掛けや指導に役立てることができた。
- デジタル学習カードを作成・活用することで一人一人の技能や習熟度に応じて、児童自身が技を選んで課題を発見したり、課題解決に向けた活動を選んだりすることにつながった。また、学習の見通しももたせることで、児童の主体的な学びにつなげることができた。
- 様々な場を準備することで、児童同士の学び合いや課題に応じた練習方法を選び、技能を向上させることにつながった。

### (2) 課題

- 技の系統や学年のおよその系統を見通すことができたが、今後技能面以外の指導の重点化や系統性も整理していく必要がある。
- タブレットの扱いに慣れていないと、時間がかかってしまい、運動量を確保しながらの体育学習が難しい。
- 資料の準備やタブレットの使用だけに終始することなく、教師自身が児童一人一人の状況をしつかりと見取り、児童の向上的変容に粘り強く関わっていく必要がある。また、児童の実態に応じた声掛けや児童同士のつながりをもたせるための実態把握もしながら課題発見や解決に向けた場の選択など細やかに指導を行っていく必要がある。

## 7 参考資料

- 学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料 (文部科学省初等中等教育局教育課程課)
- 学習指導要領解説 体育編 (文部科学省)
- 指導の手引き (スポーツ庁)
- 器械運動 技の指導の要点 (文部科学省)